

狭山市遺跡調査会報告 第2集

森ノ上遺跡

第3次調査

1993

埼玉県狭山市遺跡調査会

狭山市遺跡調査会報告 第2集

もりのうへ
森ノ上遺跡

第3次調査

1993

埼玉県狭山市遺跡調査会

序

狭山市は、関東平野のほぼ中央に位置し、埼玉県西南部に当たる武蔵野丘陵地帯にあります。

地形的には、名栗村から発して荒川に注ぐ入間川が市域の中央やや北寄りを貫流し、市街地を二分して河岸段丘を形成しています。この河岸段丘上は、おおむね平坦地で畑地と武蔵野の平地林で形成されており、遺跡分布調査の結果66か所の遺跡の所在が確認されています。

昭和50年代に入り、開発に伴う宅地造成等が遺跡の所在地に多くなってきたことに対応して、遺跡の保護のため発掘調査を行って記録保存を実施しているところです。

本書は、昭和63年度に発掘調査を実施した森ノ上遺跡の記録保存の報告書です。ここに、その成果を明らかにして広く市民各位及び研究者のご指導、ご助言を仰ぐ次第です。

最後に、各遺跡調査をご快諾いただいた土地所有者、地元関係者各位に対して厚くお礼申し上げます。

狭山市遺跡調査会

会長 武居 富雄

例 言

1. 本書は、昭和63年に狭山市柏原字森ノ上237番地1の発掘調査を実施した森ノ上遺跡3次の調査報告書である。
2. 調査及び整理の期間は、昭和63年5月5日～平成5年3月30日までである。
3. 調査の文化庁通知は、昭和63年6月20日付 委保第5の801号である。
4. 発掘調査は、神田幾三郎氏の依頼を受け、森ノ上遺跡調査会が実施し、小淵良樹が担当した。
5. 平成4年5月に各調査会を統合し、狭山市遺跡調査会と名称を改めた。
6. 本書の編集は、狭山市遺跡調査会が行った。
7. 本書の執筆は、調査担当者が行い、挿図の作成及び遺構の写真撮影は、調査担当者と大竹幸喜、宮野将仁が行った。
8. 発掘調査及び整理、本書作成の過程において下記の方々のご指導、ご助言を賜った。
ここに厚く感謝の意を表す。

飯田充晴、石川久明、伊藤研志、齋藤 稔、齋藤祐司、笹森健一、曾根原裕明、坪田幹男、
中平 薫、埼玉県教育局文化財保護課

目 次

序

例 言

目 次

挿図目次

写真目次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 狭山市及び周辺遺跡の立地と環境	2
第3章 森ノ上遺跡3次の調査	5
第1節 遺跡の概要	5
第2節 遺構と遺物	6
第4章 結 語	6

挿 図 目 次

第1図 狭山市周辺遺跡図 (1/50,000)
第2図 森ノ上遺跡周辺地形図 (1/5,000)
第3図 全体測量図 (1/300)

図 版 目 次

図版1	溝 1
図版2	溝 2

組 織 表

発掘調査

狭山市森ノ上遺跡調査会

- 会長 市川正男（狭山市教育委員会教育長）
理事 齋藤勝次（狭山市文化財保護審議会委員長）
理事 久保田福造（狭山市教育委員会教育次長）

事務局

- 事務局長 山崎 稔（狭山市教育委員会社会教育課長）
事務局 梅田久詞（狭山市教育委員会社会教育課社会教育係長）
事務局 末吉 隆（狭山市教育委員会社会教育課職員）
調査担当 小淵良樹（狭山市教育委員会社会教育課職員）

整理・報告書刊行

狭山市遺跡調査会

- 会長 武居富雄（狭山市教育委員会教育長）
理事 齋藤勝次（狭山市文化財保護審議会委員長）
理事 山崎崎稔（狭山市教育委員会教育次長）
理事 水越昭久（狭山市教育委員会社会教育担当参事）
監事 高橋彦一（狭山市文化財保護審議会委員）
監事 田口定一（狭山市会計課長）

事務局

- 事務局長 牛窪忠洋（狭山市教育委員会社会教育課長）
事務局 石田公一（狭山市教育委員会社会教育課文化財係長）
事務局 石塚和則（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）
事務局 松嵩直人（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）
整理担当 小淵良樹（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）

調査・整理参加者

協力員

- 桜井ハル、田口文枝、瀧沢靖彦、平山 勝、三浦良子、水村弘子、諸井芳子、矢島 勇
山川淑恵、山岸義造、山崎好子、山本とし子

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経過

昭和63年2月に神田幾三郎氏から狭山市柏原字森ノ上237番地に倉庫を建設する届が提出された。当該地は埋蔵文化財包蔵地（県遺跡番号22008）の範囲内にあり、昭和61年に調査を実施した第2次調査区に隣接していることから遺構の存在が予想された。そこで、発掘調査をして記録保存する必要があり、その前段階として確認調査を実施するように通知した。

その後協議を行い確認調査を実施してその結果により、発掘調査の取扱いを決定することとした。遺構が確認されたときは、遺跡調査会を設立して発掘調査を実施することとした。

昭和63年2月8日に確認調査を実施した結果、溝1条を検出した。そこで発掘調査を実施することとなった。調査は遺跡調査会を設立して実施する予定であったが、既に昭和61年に別事案により森ノ上遺跡調査会が設立されていたため、同一遺跡内のことであり新たに遺跡調査会を設けず、この調査会で対応することとなった。

昭和63年2月1日付けで、神田幾三郎氏から文化庁あて埋蔵文化財発掘届が提出された。これを受けて昭和63年5月1日に森ノ上遺跡調査会と発掘調査に関する契約書が締結され、昭和63年5月7日に重機を導入して調査が開始された。

第2節 調査の経過

- 5月7日 重機を導入して表土を除去。直ちに人員を投入して遺構確認を実施。その結果溝1条を検出。
- 5月8日 溝の調査。
- 5月9日 溝の調査を終了。各種図面を作成し、写真撮影を実施。重機にて埋め戻しをして調査を終了。

第2章 狭山市及び周辺遺跡の立地と環境

狭山市は、埼玉県南西部に位置する人口15万人の都市である。主要交通路は、鉄道では西武新宿線、道路では国道16号線と国道299号線がある。市の主要産業は農業であったが、昭和37年に川越工業団地、昭和46年に狭山工業団地が造成され、現在では、工業製品出荷額が埼玉県第1位をほこる工業都市となっている。このなかで、東京環状線として機能している国道16号線が重要な位置を占めている。また、副都心新宿に約50分で行ける利便さは、東京方面への通勤圏として住宅適地となり、都市化現象もみられる。

〈立地〉

埼玉県の地形は、西部の山岳地から順次標高を下げ、武蔵野台地等を経て東部の低地へと続く。中央部の台地は、山地から流れだす中小河川によって浸蝕され、多くの河岸段丘を形成している。入間川もその一つで、市内では武蔵野台地を開析して南部の狭山市街地をのせる段丘(武蔵野台地)と、北部の広瀬・柏原地区等をのせる段丘(入間台地)を形成している。入間川の流れは、南西から北東に向いており、水富地区から開析谷の幅を徐々に広げ、川越市の落合橋付近で南東流してくる越辺川と合流する。河岸段丘は、南側で3段、北側では2段であり、上流の笹井では3段となっている。

狭山市南部では、入間川とおおむね同方向に流れる不老川に開析された地形を呈しているが、その川は冬の洪水期には流れがなくなり、開析の度合は進んでいない。

段丘上は、ほぼ平坦であるが微地形は複雑で、入間川の流れと同方向に埋没谷がいくつかみられる。段丘崖は急傾斜を呈し、湧水が認められる所もいくつかある。遺跡は、各時代を通じてこの段丘崖に沿って認められる。

〈狭山の遺跡〉

当市には、66か所の遺跡が所存する。時代別の遺跡数は、旧石器時代4、縄文時代44、古墳時代6、奈良・平安時代41である。遺跡の大半は、入間川の両岸段丘上に立地する。(増田 他 1986)。右岸は、入間川町の市街地をのせる段と入間基地をのせる段の2段に遺跡が所在し、左岸は笹井地区では3段に所在し、他は最上段に立地する。入間川流域以外では、左岸段丘の奥にある智光山公園を水源とする小河川の両岸に11遺跡が集中している。遺跡の時代別立地状況の特色は、特に認められない。次に各時代について概観する。

旧石器時代

遺物は、表採資料で数点発見されている。森ノ上西⑩・上中原の両遺跡では、ナイフ形石器が発見されている。

平成2年に、首都圏中央連絡道路の建設に先立って根岸に所在する西久保遺跡の発掘調査が埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって行われ、ナイフ形石器等が出土している。

縄文時代

時期別では、草創期2、早期3、前期19、中期37、後期16、晩期0である。草創期は、上広瀬上

ノ原①・下並木の両遺跡で尖頭器が発見されている。早期は、昭和44年に調査が実施された今宿遺跡⑬(小淵 1987)で茅山式期の野外炉が発見されている。前期は、昭和56年調査を実施した揚楯木遺跡で、黒浜期の住居跡を9軒検出し、多量の土器と石器が出土した。中期は、前期の揚楯木遺跡と昭和46・56年に調査を実施した宮地遺跡⑭で住居跡61軒と敷石住居跡3軒、土壌多数を検出した。宮地遺跡では、勝坂期から加曾利EⅣ期までの時期があり、環状集落を呈している。後期は、高根遺跡の調査で堀ノ内期の包含層を検出し、多量の土器が出土している。

古墳時代

古墳群3か所と集落跡が確認されている。昭和56年に調査を実施した滝紙園遺跡(小淵 1983)では、後期の鬼高期に属する住居跡を1軒検出している。古墳は、昭和53年の笹井古墳群で半地下式構造を呈するものが1期検出されている。他にも、上広瀬古墳群⑮・稲荷山公園古墳群⑯で工事等で半地下式構造の古墳が発見されている。

昭和63年に市営住宅の立て替えに伴い遺跡の一部を発掘調査したところ、古墳5基を検出した。いずれも埋葬施設は地下に石室を構築している。石室から鉄製の直刀、鎌、刀子、ガラス製小玉、水晶製切子玉などが出土している。

奈良・平安時代

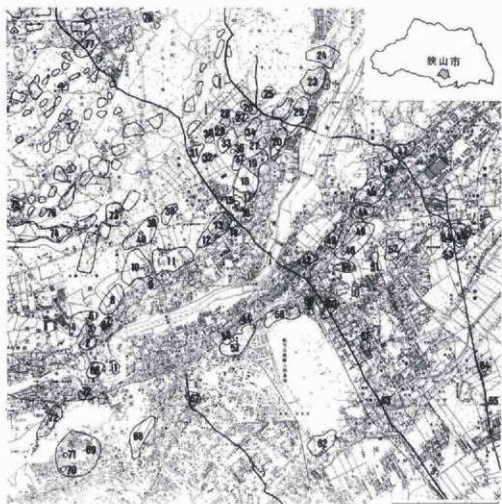
この時代は、狭山市で特に遺跡が多く、入間川の両岸台地上は当該期の遺跡がほとんどである。調査した遺跡も多く、宮地・上広瀬ノ原(小淵 1985)・今宿・森ノ上・富士塚⑰・小山ノ上⑱・城ノ越(増田 1978、小淵 1985)・宮ノ越(駒見 1982)・揚楯木(小淵 1986)・稲荷上⑲の10遺跡がある。検出した遺構は、竪穴住居跡が254軒、掘立柱建物跡が55棟、墳墓6基である。

鎌倉時代以降

城柵関係では、入間川左岸に城山砦跡(那の一部)が存在する。現在、土塁と堀に囲まれた一廓が遺在している。ここから上流1kmの地点に本書で報告する小山ノ上遺跡⑲で検出した堀が存在する。このほかには、武蔵野台地に特徴的にみられる深井戸が七曲井・堀兼之井・八軒家の井の3基存在する。七曲井は、昭和45年に発掘調査を実施してロータ状の堀り方と井桁を検出、多量の陶磁器が発見されている。これらの井戸は、埼玉県教育委員会が実施した歴史の道の調査で確認された鎌倉街道に隣接しており、この街道と密接な関係がうかがえる。街道は、3本の道筋(あ〜う)が確認されており、(あ)は本道として、(い)は堀兼道として位置付けられている。(あ)は、北が日高町女影付近を通り鳩山町今宿へ抜け、南は所沢市久米から東京都府中市へと抜けている。(い)は、所沢市内で(あ)と分離して狭山市堀兼を通り、狭山市新狭山へと通じている。これらの道筋は、鎌倉時代以前の古道を整備したものともいわれており、奈良・平安時代の集落との関連が十分に考えられる。

遺跡名		遺跡名		遺跡名	
1	東八木窯跡群 (22049)	28	上の原東遺跡 (22065)	55	台遺跡 (22085)
2	八木遺跡 (22068)	29	上の原西遺跡 (22063)	56	稲荷山公園古墳群(22052)
3	八木北遺跡 (22021)	30	半貫山遺跡 (22061)	57	稲荷山公園遺跡 (22051)
4	八木上遺跡 (22022)	31	稲荷山遺跡 (22058)	58	石無坂遺跡 (22083)
5	沢口上古墳 (22020)	32	前山遺跡 (22059)	59	富士見西遺跡 (22082)
6	笹井古墳群 (22019)	33	高根遺跡 (22062)	60	富士見北遺跡 (22072)
7	沢口遺跡 (22080)	34	町久保遺跡 (22034)	61	富士見南遺跡 (22081)
8	宮地遺跡 (22018)	35	宮原遺跡 (22017)	62	町屋道遺跡 (22088)
9	金井遺跡 (22071)	36	下双木遺跡 (22078)	63	七曲井 (22046)
10	金井上遺跡 (22023)	37	上双木遺跡 (22077)	64	堰兼之井 (22047)
11	上広瀬上ノ原遺跡(22005)	38	上広瀬西久保遺跡(22073)	65	八軒家の井 (22076)
12	霞ヶ丘遺跡 (22004)	39	東久保遺跡 (22070)	66	八木前遺跡 (22087)
13	今宿遺跡 (22002)	40	西久保遺跡 (22069)	67	金堀沢遺跡 (入間市)
14	上広瀬古墳群 (22001)	41	上諏訪遺跡 (22086)	68	坂東山遺跡 (入間市)
15	森ノ上西遺跡 (22079)	42	滝紙園遺跡 (22066)	69	東金子窯跡群 (入間市)
16	森ノ上遺跡 (22008)	43	峰遺跡 (22024)	70	新久窯跡群 (入間市)
17	富士塚遺跡 (22009)	44	戸張遺跡 (22026)	71	八坂前窯跡群 (入間市)
18	鳥ノ上遺跡 (22010)	45	揚楯木遺跡 (22027)	72	前内出窯跡群 (入間市)
19	小山ノ上遺跡 (22011)	46	坂上遺跡 (22029)	73	芦刈場遺跡 (飯能市)
20	御所の内遺跡 (22012)	47	稲荷上遺跡 (22032)	74	張摩久保遺跡 (飯能市)
21	英遺跡 (22074)	48	上中原遺跡 (22089)	75	中原遺跡 (飯能市)
22	城ノ越遺跡 (22013)	49	中原遺跡 (22025)	76	ヤタリ遺跡 (飯能市)
23	宮ノ越遺跡 (22016)	50	沢台遺跡 (22079)	77	若宮遺跡 (女影魔寺を 含む) (日高町)
24	字尻遺跡 (22075)	51	沢久保遺跡 (22041)	78	宿東遺跡 (日高町)
25	丸山遺跡 (22037)	52	下向沢遺跡 (22042)	あ	鎌倉街道上道 (本道)
26	金井林遺跡 (22035)	53	吉原遺跡 (22067)	い	鎌倉街道上道 (堀兼道)
27	鶴田遺跡 (22044)	54	下向遺跡 (22085)	う	鎌倉街道上道枝道

図中における日高町所在の遺跡は『日高町遺跡分布調査報告書』(1980)に、飯能市所在の遺跡は『飯能市遺跡分布地図』(1983)・『飯能 遺跡(1)』(1984)によった。なお鎌倉街道上道の道筋は埼玉県教育委員会『鎌倉街道上道』において推定されたものを記載した。



第1图 鞍山市市区道路图 (1/50,000)

第3章 森ノ上遺跡の調査

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、入間川左岸の台地上に立地し、西武新宿線狹山市駅から北西に2kmの地点に所在する。遺跡の規模は240m×200m、面積にして28,000㎡を測る。縄文時代中期(加曾利E)、奈良・平安時代の複合集落遺跡である。遺物の散布状況は、縄文時代が西側から中央部にかけて分布し、奈良・平安時代は全体に分布している。

遺跡をのせる台地は入間川に面し、沖積地との比高差約14mを測る。台地上は概ね平坦であるが、西から東にかけてゆるく傾斜している。遺跡の東端には、深い谷が入り込んでいる。

昭和61年に第1次調査が行われ、縄文時代中期の竪穴住居跡が5軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡14軒、同時代の掘立柱建物跡10棟が検出された。

調査区は、35m×90m、面積3,250㎡である。検出した遺構は、溝が1条である。



第2図 遺跡周辺地形図 (1/5,000)

第2節 遺構と遺物

溝1 (第3図)

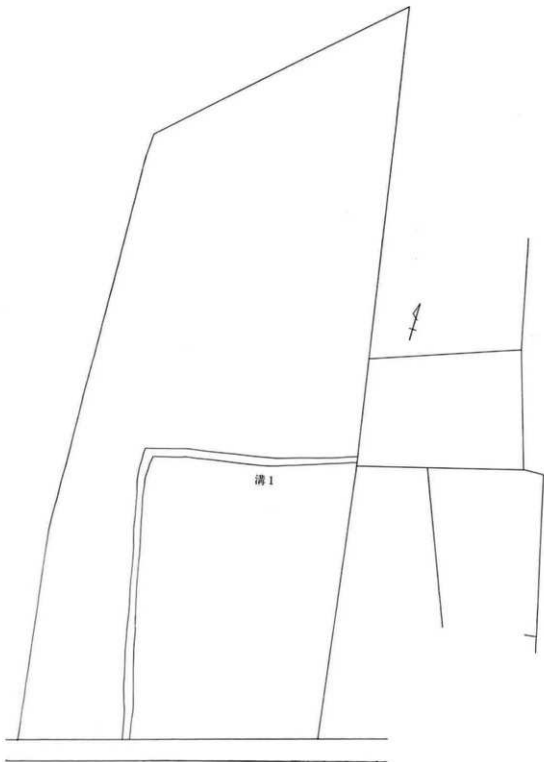
調査区の南部で検出された。東から走行して、調査区中央付近で90度南に折れて走行する。

規模は幅1.00m、深さ0.25mを測る。断面形状は、箱形を呈する。土層断面の観察では、水が滞留した痕跡はない。

出土遺物は無い。

第4章 結 語

今回検出した溝は、第1次調査区からの続きである。出土遺物が3次に渡る調査でも出土していないので時期が不明である。東西に長く走行していた溝が本調査区で直角に折れて南下しているので四角を意識して掘られたものであろう。水の滞留した痕跡がないので水を張ってある堀とは考えられない。ここではなんらかを区画したものと考えておく。



第3圖 全体測量図 (1/300)

圖 版



沟 1



沟 1

報告書抄録

ふりがな		もりのうえいせき だいのじちようさ						
書名		森ノ上道跡 第3次調査						
副書名								
巻次								
シリーズ名		狭山市道跡調査会報告						
シリーズ番号		第2集						
著者氏名		小沼 良樹						
編集機関		埼玉県狭山市道跡調査会						
所在地		〒350-1380 埼玉県狭山市入間川1-23-5					TEL04-2953-1111	
発行年月日		西暦1993(平成5)年7月1日						
所収道跡名	所在地	コード		世界図地系		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	道跡番号	北緯	東経			
森ノ上道跡	埼玉県狭山市 柏原字森ノ上237番地	22	8	35.87095	139.39657	19880507 ~19880509	3,250	倉庫建設
所収道跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
森ノ上道跡	集落跡	不明		遺跡	1条	なし		

平成5年6月20日印刷
平成5年7月1日発行

狭山市遺跡調査会報告
森ノ上遺跡第3次調査

発行 埼玉県狭山市遺跡調査会
埼玉県狭山市入間川1-23-5
電話 0429 (53) 1111

印刷 ミネ五十子印刷
埼玉県狭山市狭山14-8
電話 0429 (52) 2701

【正誤表】

森ノ上遺跡 第3次調査

(狭山市遺跡調査会報告書 第2集)

ページ	行	誤	正
組織表	8行目	山崎稔	山崎稔
	16行目	山崎崎稔	山崎稔
3ページ	1行目	下並木	下双木
	10行目	1期	1基
4ページ	11 上広瀬上ノ原遺跡	22005	22007
	48 上中原遺跡	22089	22039
	49 中原遺跡	22025	22038

